

UNITEX LTFS3000 for Windows Ver.2.8.0 リリースノート

【概要】

(主な変更点)

- ・Windows 11 に対応しました。
- ・UNITEX LT80H2 / LT70H2 モデルに対応しました。
- ・LTFS 暗号化機能に対応しました。
※本機能の利用には、「UNITEX FASTapeLT for Windows」の LTFS 暗号化オプションライセンスが必要です。

(不具合修正)

- ・ロールバック/世代情報取得処理に 8 時間以上かかってしまった場合、処理がタイムアウトにより失敗してしまう問題を修正しました。

(関連情報)

- ・製品 URL
<https://www.unitex.co.jp/products/software/ltfs/ltfs3000/>

【対応 OS】

- Windows 7 / 8 / 8.1 / 10 / 11
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012 / 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

【対応装置】

- UNITEX LT80H2 / LT70H2 (USB/USB-RM)^{※1}
- UNITEX LT80H / LT70H / LT60H / LT50H (USB/SAS/USB-RM/SAS-RM)^{※1}
- UNITEX LT80 / LT70 / LT60 / LT50 (USB/SAS/USB-RM/SAS-RM)^{※1}
- UNITEX Dual LTO Series

※1.LTO-8ドライブは、Windows 8.1/10/11、Windows Server 2012 R2/2016/2019のみサポートとなります。

【旧バージョン変更履歴】

【Ver.2.7.0】 2021/10/13

(主な変更点)

- ・Windows Server 2019 に対応しました。

(不具合修正)

- ・ありません。

【Ver.2.6.0】 2021/01/05

(主な変更点)

- ・ユーティリティ画面にログファイル取得機能を追加しました。

(不具合修正)

- ・別の LTO 装置に交換した際に、交換前のドライブ情報で表示してしまう可能性のある問題を修正しました。

【Ver.2.5.0】 2020/04/27

(主な変更点)

- ・ありません。

(不具合修正)

- ・軽微な問題を修正しました。

【Ver.2.4.0】 2019/07/29

(主な変更点)

- ・セキュアブート設定が有効な環境へのインストールに対応しました。
- ・LTO 装置のテープドライバの自動インストールに対応しました。
- ・LTO 装置の表示順をドライブ文字順で表示するよう変更しました。
- ・LTO 装置のドライブ文字をメディアが装填時のみ割り当てるように動作を変更しました。
- ・LTFS の世代記録設定を追加しました。

(不具合修正)

- ・LTO 装置の再接続時に稀にドライブ文字設定が未割り当てになってしまう問題を修正しました。

【Ver.2.3.0】 2018/04/25

(主な変更点)

- ・LTO-8 ドライブ装置に対応しました。
- ・UNITEX LTxxH USB(USB 高速 LTO ドライブ装置)に対応しました。
- ・Windows 10 / Windows Server 2016 に対応しました。

(不具合修正)

- ・軽微な問題を修正しました。

【Ver.2.2.0】 2016/07/19

(主な変更点)

- ・LTO-7 ドライブ装置に対応しました。
- ・ラックマウント型 LTO ドライブ装置に対応しました。

(不具合修正)

- ・ドライブ一覧が更新されないことがある問題を修正しました。
- ・その他、軽微な問題を修正しました。

【Ver.2.1.1】 2016/03/09

(主な変更点)

- ・ありません。

(不具合修正)

- ・一部の SAS アダプタを使用し LTO ドライブ装置を SAS 接続した場合、メディア情報が表示されない問題を修正しました。

【Ver.2.1.0】 2015/12/21

(主な変更点)

- ・LTFS の各種画面操作を行うユーティリティソフトウェアを公開しました。

(不具合修正)

- ・ありません。

【Ver.2.0.0】 2014/09/12

(主な変更点)

- ・初版